

平成19年度事業計画書

(平成19年9月1日から平成20年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

I 余剰食品の回収と非営利団体への無償提供事業について

フードバンク関西は、昨年度に引き続き本年度も食品関連業者から余剰食品と余剰生活用品を回収し、社会福祉施設や生活困窮者の自立を支援する非営利団体にこれら食品等を無償で分配する事業を継続し、さらに発展させます。

本年度からは、「食品流通の末端に、ボランティア活動によって金銭を介在させない食べ物の流通システムを創出し、命の糧である食べ物を大切に活用すると同時に、人々がお互いに助け合う社会の構築に貢献する。」という活動理念を明確にし、その実現に向けて事業をさらに拡大したいと考えます。

そのためには、作業に当るボランティアの確保、運営資金の調達、余剰食品提供企業の協力、食品を受け入れ有効活用してくださる福祉団体の参加と協力が必要です。

フードバンク関西で食品の回収と分配の作業に当って下さるボランティアの方々には、やりがいを感じる働きやすい環境の整備を心がけ、負担過多にならない運営を行い、増員を図ります。

次に、フードバンク関西がこの事業を質的にも内容のある活動として発展させるために、学識経験者や食品関連の専門知識をもつ方々にアドバイザーとしての参加を求め、ボランティアが食品の安全管理や適切な扱い方を研修する機会を作り、食品に関して適切で豊かな知識を持つボランティア集団に変わる努力をします。

昨年度後半に、当法人の事業が報道関係者の関心を集め、毎日新聞、読売新聞に活動紹介の記事が掲載され、毎日放送テレビの報道番組でも取り上げられました。その結果として食品関連企業からの問合せが増加しています。フードバンク関西は、新しく余剰食品の提供を申し出てくださる企業に対し、食品の品質や保管条件等を吟味し受入可能かどうかをよく検討すると同時に、食品の配送についても協力を求め、また正会員となってフードバンク関西の協働事業者として主体的な参加を求めます。

また、一般の方々のフードバンクへの関心が高まってきたことを受け、食品関連企業に対する広報活動を強化し、フードバンク関西の事業への参加は、企業の社会貢献に繋がることをアピールします。具体的にはフードバンク関西ニュースの年3回以上の発行と掲載記事の充実、阪神間の食品関連企業への発送の継続、ホームページの内容の充実と頻繁な更新を図り、最新の情報提供を心がけます。

さらに認定NPO法人化への手続きも継続し、活動の公共性、公益性が公的機関からも証明されるよう努力をします。

食品を受け入れて有効活用してくださる福祉団体の皆さんに対しても、フードバンク関西の事務所で食品の受け渡しをする等、この活動への参加と協力を求めます。

今後増加すると予測される食品関連企業からの多量の食品提供を受け入れ、積極的

な活用を図るための方法の一つとして、現在すでに食品の受け取り団体であるNPO法人釜が崎支援機構を窓口として、大阪市西成区地域でホームレスを支援する複数の福祉団体との連携を図り、食品の無償分配だけに留まらず、新たな就労の機会に結びつく事業への支援も視野にいたした協働を考えます。

フードバンク関西は、他地域のNPO団体がフードバンク事業への参入を希望し、支援を求めてきた場合、フードバンク活動の日本での拡大を願う見地から、この事業の先駆団体として私達が今までに培った方法や活動経験を情報提供し、日本国内にこの活動が広く根付き拡大していく事を応援します。

II 小規模作業所生産品バザーへの取り組みについて

フードバンク関西の社会貢献のもう一つの形として、フードバンク関西への食品提供業者であるカルフル尼崎店と、食品受け入れ団体である小規模作業所との間をつなぎ、カルフル尼崎店の1階商業スペースの一部を無償で借り受け、フードバンク関西がマネジメントを引き受けて、出店料無料の作業所生産品バザーを開催しています。2004年3月からスタートし、今年9月で第22回となりました。出店作業所も新たなメンバーが加わり、毎回数ヶ所の作業所の参加で行っています。このバザーは、一般購買客への販路を確保しにくい作業所にとって、貴重な販売の機会になり、生産品の品質の向上と、売れ筋商品の開発のための研修の場として、また、接客する事を通して、通所者と一般の方々との交流の機会ともなっております。本年度から開催頻度を3ヶ月に一度程度に変更して作業所スタッフの負担を軽減することも配慮しながら、継続します。

III 「ふれあい工房 悠 (はるか)」について

毎週土曜日午前11時から午後2時までの3時間、「ふれあい工房悠」と名づけて、事務所談話室を近隣の皆さんに開放し、余剰食品を食材としたランチの試食会を行い、交流の場として活用しています。調理士資格を持つボランティアが中心になって、その週に取り扱った食品を食材とした軽いランチを準備し、運営しています。企業からの食品の搬入や引き取り団体への搬出等の作業を見学したり、取り扱う食品を試食していただく事で、フードバンク関西の活動に触れる機会としてとても効果的です。地域の皆さんや見学者、食品を受け取りに来た福祉団体のスタッフ、フードバンク関西のボランティア、いろいろな立場の方々が、くつろいだ雰囲気の中で試食と会話を楽しみ、交流を深めています。多くの方に「ふれあい工房悠」に集うことをきっかけにして、フードバンク関西が行う事業への理解を深め支援の輪に参加していただくための広報活動の一つとして、また、たくさんの方々との出会いによる新たな発展を期待しつつ、本年度もこの事業を続けます。